タウン タウン 小麦

特定非営利活動法人
発　行　くまがや小麦の会
発行責任者　日向美津江
ホームページアドレス
http://www.kumagayakomuginokai.jp/
くまがや小麦の会　検索

NPO法人 くまがや小麦の会 since 2006
事務局　〒360-0801　埼玉県熊谷市中奈良1797-1
TEL. 048-521-7801

Interview シリーズ No. 15

ひと彩々

埼玉県赤十字血液センター ―熊谷駅前献血ルーム

熊谷駅出張所長
玉川（たまがわ） 忠弘（ただひろ）さん（53歳）

昭和37年(1962)10月　埼玉県深谷市生まれ。民間企業等を経て、平成3年(1991)4月、熊谷赤十字血液センター入社(後の埼玉県熊谷赤十字血液センター)。主に献血推進部門に従事、日本赤十字社埼玉県支部等を勤務したのち、川越献血ルーム、所沢献血ルーム出張所長を歴任し、平成26年(2014)4月より、熊谷駅出張所(熊谷駅献血ルーム)所長。

献血から見えること

埼玉県北部地域の玄関ともいえる熊谷駅北口近くに、今年十五周年を迎える熊谷駅献血ルームはある。その出張所長を務める玉川忠弘さんに、献血事業の現状についてお話を伺った。

「皆さんが安心して献血してもらえるように心掛けています。」駅周辺の喧騒とは異なり、穏やかな雰囲気の広がる献血ルーム。その待合室で玉川さんは語った。

玉川さんは所長として、約十名のスタッフと共に、多くの人々が献血しやすい環境づくりに努めている。待合室には季節に応じた掲示や可愛らしいフィギュアを置くなど、家族ぐるみでも来場できるアットホームな献血ルームになっている。

今日、少子高齢社会による医療機関での血液需要が高まりを見せている。先進的な医療技術の発展において、外科的手術の高度化や多岐化が進み、安定的な血液の確保が不可欠となっている。しかしながら、玉川さんによると、今後の献血を支える十代、二十代といった若年層の献血が減少している状況がある。その数字は国、地方の数値データからも同じような状況が示されている。

玉川さんは、このような現状と向き合いながら、「献血の不足によって一番困るのは患者さんです。より多くの方々が献血に興味を持ち、善意の協力が得られるように力を注いでいきたい」と話す。そして、「若い世代が献血ルームの扉を気軽に開けられるようなPRや、安心で安全な献血のイメージを伝えていくことも大切です」と、将来の献血を担う次世代の協力を呼び掛けている。

来場した献血者はその日の体調などの問診を受け、その後、採血が行われる。採血後は提供された飲み物や食べ物を口にしながら落ち着いた時間を過ごす。初めて来場した人は全ての過程に約1時間を要するが、2回目以降は献血カードの導入などスムーズな流れにより時間も短縮できる。献血の種類としては、成分献血や200mlまたは400ml献血が可能。玉川さんは「血液の成分のひとつである血小板は4日間しか保存できないために、継続的な確保が必須」と語る。

玉川所長(右から2人目)とスタッフの皆さん

献血の第一線ともいうべき現場で事業を進める玉川さん。誰もが足を運べる献血ルームを目指して、毎日の取り組みが続けられている。（Y）

けんけつちゃんサブレ登場

熊谷駅北口にある「熊谷駅献血ルーム」の所長さんから一本の電話が小麦の会に入った。

「熊谷駅のニューデイズミニで販売しているあつべえサブレを作っている小麦の会さんですか」献血ルームの所長さんからのお問い合わせだった。熊谷産小麦で熊谷のNPO法人が作っている事に興味をもたれ、献血活動のマスコット〈けんけつちゃん〉のサブレ製作を依頼された。地産地消を踏まえての嬉しいご依頼であった。献血に協力してくださった方にお渡しする製品となる。

医療の高度化に伴い、血液の確保は献血に頼る他ない。特に若い方の血液が欲しい。所長さんのお話を伺い、〈けんけつちゃんサブレ〉の制作に取り組んだ。大きな耳が欠けないように、お味はアーモンドサブレを基調に、プレーンとココアにした。2枚づつ4枚を袋詰めし、けんけつちゃんオリジナルシールを制作して貼った。

献血後のお茶の一時、けんけつちゃんサブレが穏やかな微笑みを誘ってはくれないだろうか。献血ルーム、献血車での活用でより多くの方々の御協力に繋がっていくことを祈っている。（H）

麦笛

「衣食足りたらトキメキを求めよ」

日向美津江

■この表題は私の物ではない。最近、講演をお聞きする機会を得た、東京慈恵会医科大学外科講座統括責任者・教授大木隆生先生の座右の銘だ。NHKプロフェッショナル 仕事の流儀 で特集を組んで紹介された「すべてを捧げて命を繋ぐ血管外科医 大木隆生」その先生が熊谷にお越しになり、目の前の壇上に現れた。NHKの仕事の流儀で、こんな先生がいたなら医療の硬直化などぶっ飛ぶと、スカッとした印象が強く残っていた。

■講演は熊谷までの車中でもパソコンの内容の手直しをされた為か、、電源不足で立ち上がらなかった。しかしこれが又良かった。医学の知識門外漢にとって、画面なしでお話された先生の言葉はより素直に心に届いてきた。幼少期はエリート商社マンであられた父上の仕事で海外の生活が長く、語学を体得される機会となった。帰国後、慈恵医科大学に進学され、外科医を志された。医学博士を取得後、渡米、名門アルバートアインシュタイン医科大学モンテフィオーレ病院血管外科に勤務された。先生は手術方法、手術道具はいくらでも改善の余地があり、工夫ができると語られる。培われた語学を生かし十年間で無給医から最年少で外科教授の要職に就かれた。

■年収は一億円を超えていた。お子様二人もアメリカ国籍を取得し、家族は順風満帆アメリカンドリームを満喫していた。先生の開発された枝付きステントグラフトに代表される用具類、手術方法は患者を何とか直して、喜ばせて上げたいと必死に努力をされた結果に違いない。またアメリカの持つ利益追求社会への疲れも感じ始められていた頃、母校の慈恵医科大学青砥病院で医療事故が起き、慈恵の立て直しに諸先輩は米国の大木教授に白羽の矢を立てて来られた。慈恵の年収は800万円であったと語られた。

■日ごろ先生は座右の銘として「衣食足りたらトキメキを求めよ」と説いておられたと聞く。800万円で衣食は足りる。日本文化の持つまた、慈恵医科大学外科講座のスローガンでもある「トキメキと安らぎのある村社会」の実現に帰国を決意、家族を説得した。慈恵に戻られて十年間、慈恵医科大学外科の医療報収最下位であった血管外科をトップの座まで先生の求心力と創意工夫で押し上げた。外科医局員数も240名を越し、地方医療に外科医を送り込んでおられる。多くの大病院で治療不可能とされた患者を受け入れ、可能性に賭けておられる。先生のエネルギーは人を喜ばせたい、諦めない優しさに溢れている。

■八年前になるが、如何にもならなかった命とは思うが大学病院での対応に、できる医療も、出来なくなっていると内心世倪たるものを抱えた。今回の講演をお聞きし安らぎを頂いた。1日3件、年間500件にのぼる手術をこなされていると伺う。患者は担当して頂いた先生が頼り、医療機関の連携が取れて、担当の先生が手に負えないときは、慈恵医科大学外科　大木教授の元へ送り込んで頂けることを、血管外科分野で患者になるかも知れない一人として、夢見ている。

小麦の会 活動報告

7/23(木) 官民協働うちわ祭 市役所通り清掃大作戦

小麦の会では、うちわ祭の裏日、多くの会員が清掃大作戦に参加いたしました。集合場所の市役所で、役員の方からゴミ袋、軍手等をいただきゴミ拾いに出発です。約2時間、会員の協力により、市役所から17号交差点まで清掃を行い、綺麗になりました。(T)

7/25(土) 第10回あついぞ熊谷おおさと夏まつり 熊谷市大里総合グラウンド

3時から始まる大里夏祭りに先駆けて、毎年、雀幸園で80人の園児の皆さんと職員の方々もご一緒に焼きそばランチパーティーで盛り上がります。その後大里夏祭りに出発します。ステージが組まれていてイベントは盛り沢山！昨年の大嵐が思い出されました。今年はお天気にも恵まれ売上新記録でした。(H)

8/7(金) 第27回くまがや平和寄席 熊谷市立文化センター

人気テレビ番組「笑点」でお囃染みの林家木久扇さんがご出演のため、会場は大盛況で満席でした。写真は、ご出演の林家木りんさん（元大関清國関のご子息）と小麦の会スタッフです。背が高くて素敵な落語家さんにもパンをお買い上げいただきました。沢山のお客様にお買い上げいただき、ありがとうございました。(R)

9/20(日) サッカーJ2大宮アルディージャVS セレッソ大阪　熊谷スポーツ文化公園陸上競技場

試合開始午後6時にも関わらず、午後1時過ぎからオレンジのアルディージャ、ピンクのセレッソ、サポーターさんで会場は大盛況。大阪からいらっしゃったサポーターの皆さんにも沢山お買い上げいただきました。アルディージャのマスコットをはじめ、埼玉県内のご当地キャラも勢揃いでの応援でしたが1-2で惜敗でした。(R)

10/3(金) 高城神社明神市 高城神社境内

今年の明神市は土曜日だったので、晴れれば人出も大勢あるだろうと品揃えもいろいろ用意しました。しかし、秋晴れで風もなく好天に恵まれたにもかかわらず人出が今ひとつでした。というのも近所の幼稚園などで運動会が行われていたので、そのせいもあったと思います。

パンや焼きそばも売れ残りが出てしまい、毎年少しずつ売上が伸びていたのに、今年は下がってしまい残念でした。でも、雨天で中止になる事を考えれば、まあ良かったと思います。(I)

10/11(日) 第8回ニャオざねまつり　コミュニティひろば

午前中は雨でしたが、お昼には晴れてお客様も増えました。ニャオざね、えんむちゃん、コバトン他、可愛いキャラクターが揃って楽しいイベントでした。ニャオざねサブレの売れ行きは好調で、パンも焼きそばも好評のうちに完売しました。お囃プースの団体さんに背物運びのお手伝いもいただき、市民活動団体同士の交流も楽しい日でした。(R)

舞台「焼け跡から」公演 『フーちゃんパン』 限定販売いたします。

フーちゃんパン
1個120円

日　　時：11月3日(火)
開　　場：13:30
開　　演：14:00
会　　場：熊谷市文化センター文化会館
チケット：3,000円(当日券あり)

家族で富士山に登る約束だった・・・。
主人公のフーちゃんの焼き印を押したあんパンの製作依頼が小麦の会にありました。熊谷産小麦でこしあん、粒あんの2種類を作りました。
フランスパンのような食感、焼き印が押せるよう上下を鉄板で押えて焼きました。
当日会場で販売致します。ご来場をお待ちしています。(M・Y)

企業紹介

特定医療法人同愛会 熊谷外科病院 くまがやげかびょういん

山崎哲資院長
熊谷市佐谷田三八一一一
電話 〇四八一五二一四二一五

特定医療法人同愛会　熊谷外科病院は、昭和10年12月20日熊谷市筑波2丁目に開設。平成11年8月には現在の熊谷市佐谷田に移転したが、病院の理念である「私たちは人に優しい安全な医療を提供し、皆様の健康な心と身体を守り、地域に貢献します」を職員一同で実践されいる。平成19年には、日本医療機能評価機構認定を取得し、より高度な医療を、低価格で提供する体制を整えられた。開設者の山崎茂院長、二代目山崎望人院長に続き、現在の山崎哲資院長で三代展々と病院の理念が受け継がれている。

熊谷外科病院は、東京慈恵医科大学病院と強い信頼関係が築かれている。熊谷からドクターヘリで山崎哲資院長が同乗して、東京慈恵病院に搬送、待機して下さっていた院長の恩師大木隆生教授と緊急手術を実現された。患者は現在もお元気で活躍されておられる。地域医療にとって心強い限りである。

今年で創立80周年を迎えられ、10月10日(土)にはホテルガーデンパレスに於いて創立　80周年記念式典を開催され、2000名を超える方々が出席された。当日は血管外科の世界的権威である東京慈恵医科大学外科講座チェアマンの大木教授による記念講演が行われた。血管病治療の最前線についての専門的な事のみならず、米国で最年少で外科教授となり成功を収めていた時に母校からの要請を受けて年収が10分の1に減少するにも関わらず日本の医療に貢献するため帰国された。「トキメキと安らぎのある村社会」をスローガンにやりがいのある外科医を育てる医局運営に尽力されていることなど興味い講演が展開された。

地域に根差した医療は、そこに暮す住民の生活が健やかである事に貢献する。冒頭ご紹介した熊谷外科病院の理念が訪問させて頂き、お話を伺い実践されていることに人の営みの深さを思った。(H)

イベント出店予定

11月		
1日(日)	第2回熊谷市県立高校スイーツ文化祭	八木橋1F東入口
3日(火)	演劇公演『焼け跡から』 熊谷市文化センター文化会館	
21日(土)22日(日)	第11回熊谷市産業祭	熊谷スポーツ文化公園
28日(日)	熊谷商業高校販売実習	熊谷駅コンコース
12月		
20日(日)	ベアリス30km in立正大	立正大学熊谷キャンパス

■ 会員募集
賛助会員年会費 10,000円　一般会員年会費 一口1,000円
お申込み:TEL 048-521-7801　FAX 048-521-7900

次号のお届けは2016年2月の予定です。
編集室　TEL 048-521-7801　FAX 048-521-7900